

【R 1 8】女性向け・会話形式ノベル

『無限の快樂』

～第2話：お泊りバーベキュー会～

作：七条右京

【主な登場人物】

さくらいかえで
・ **桜井 楓**：私（女子社員）

きょうごく りょう た
・ **京極 涼太**：課長

きょうごく りん
・ **京極 凛**：課長の妻

しのめ
・ **東雲**：女子社員 1

うえがみ
・ **上神**：女子社員 2

さくした
・ **作下**：男子社員

桜井楓と京極涼太の不倫関係は、3 か月が過ぎた。

不倫関係が始まった頃から、ほぼ毎週水曜日に帰りが遅くなる涼太。

そんな涼太の行動に、妻の凜は直感で浮気を疑う。

「水曜日は定時退社日、なのに帰りが遅くなるなんて、おかしいわ」

そんな中、プロジェクトチーム恒例の、軽井沢にある京極涼太課長の別荘でのお泊りバーベキュー会を行う。

いつもは参加しない凜だが、浮気相手を突き止め様と参加する。

○ 5 月 20 日水曜日の京極家の朝

京極凜：

「ねぇ涼太さん、今日も帰り遅くなるの？」

京極涼太：

「まあな」

凜：

「今日は水曜日よ、定退日に遅くなるなんておかしいじゃない」

「ここ最近毎週、ずっとよ」

「そんなにお仕事、忙しいの？」

涼太：

「今、大事なプロジェクトを任せて、色々忙しいんだよ」

「水曜日だろうと、関係無いんだよ」

凜：

「ほんとかしらねえ」

「貴方は、女子社員さんにもてもてだから」

「私、心配なのよ」

涼太：

「心配って、浮気でも疑ってるのか？」

凜：

「だれも浮気なんて言っていないわよ」

「それとも、浮気でもしてるの？」

涼太：

「そんな事する訳ないだろう？」

「ボクには凜だけだよ」

「愛してるよ」

そう言って、凜の唇に軽くキスする。

凜：

「もう、やだ、朝から」

「ところで、今週末は別荘で毎年恒例のバーベ
キューよね」

涼太：

「それがどうかしたのか？」

凜：

「私も参加しようかなあと、思って」

涼太：

「どういう風の吹き回しだ」

「今まで参加した事ないのに」

凜：

「いつもお世話になっている女子社員さんたち
に、ご挨拶と思って」

涼太：

「いいんだよ、無理して来なくても」

凜：

「私が行くって言ったら、絶対に行きますからね」

涼太：

「まあ、そんなに言うなら」

凜：

「分かったわ、お邪魔するわね」

涼太・心の声：

『なんか、勘づいてるんじゃないか？』

『女は、直感が鋭いからな』

『気を付けないと』

涼太：

「それじゃあ、行ってくるよ」

凜：

「今日は、いつもより早いね」

涼太：

「今日は、朝一に大事な会議があるんだ」

「その資料の確認をしなくちゃいけないんだよ」

凜：

「あらそうなの、気を付けて、行ってらっしゃい」

涼太と凜、2度目の軽いキスをし、家を出て行く涼太。

○ 5月20日（水）朝のオフィス

就業開始時間の40分前、既に出勤している楓。

オフィス内には、楓の他に女子社員が1人。
そこへ涼太（課長）が何故かいつもより早く出勤して来る。

桜井楓：

「あっ、課長、おはようございます」

涼太：

「桜井さん、おはよう」

「随分早いね」

楓：

「朝一の会議が気になって、ちょっと早めに準備してました」

涼太：

「そう、ちょっと確認してみるか」

そう言って、目で合図して楓と一緒にオフィス内の会議室に入る涼太。

会議室に入った瞬間、リモコンでガラスの白濁をオンにする涼太。

涼太、いきなり楓を抱き寄せて、キスをする。

楓：

「課長、駄目、時間が・・・」

唇が離れた瞬間に、突き放す楓。

いきなり、ズボンとパンツを降ろし、男性器を露出させる涼太。